

こんにちは、エフエムわいわいです。

2017 年もあっという間ではありますが、盛りだくさんにすぎ、震災 23 年の 2018 年の春がやってきます。毎週土曜日はさまざまなバックグラウンドを持つ人達がわいわいにやってきて発信をしています。制作者の人たちの番組への熱意がスタジオの温度をあげているような感覚もあります。特に第 2 週のキッズラジオの打ち合わせでは、元気な子どもたちの声が事務所スペースまで聞こえてきます。

2017 年もいくつかの番組がスタートしました。多言語の番組も開始しています。多言語番組の中には、たかとりコミュニティセンターと一緒に活動する仲間たちと制作する番組もあります。ひょうごラテンコミュニティが制作する「Latin-a」は電波放送時代からの長寿番組ですが、さらにベトナム夢 KOBE と共同で制作する「Phong chống thiên tai」が始まりました。神戸ではこの数年、留学生を中心にベトナム人住民が増加傾向にあります。阪神淡路大震災を経験していないベトナム人にも母語で防災情報を伝えたいと企画しました。また今紙中面では、多言語番組として 4 つの番組を紹介していますが、その他にもアイヌ文化を発信する「FM ピパウシ」や、ワンコイン番組でも特に第 1 週は在日コリアンの視点に重点を置き、発信を行なっています。

2017 年は、裏面でご紹介しているように地域のイベントへの参加や海外の仲間たちとの活動も継続して行なってきました。またコミュニティメディアとして国内外のネットワーク活動も継続した 1 年でした。熊本地震で活動された現地コミュニティ FM との交流、AMARC Asia-Pacific カンファレンスへの参加、ジェンダーと災害復興研究会フォーラム「災害時のアウトプットとしてのコミュニティ FM」に参加し、コミュニティ放送の現状と展望についての意見交換、韓国通信省による日本の「災害とラジオ」調査ヒアリングのアテンドも担当しました。大災害をきっかけに生まれた地域のメディアとして、インターネット配信となった今でも、防災を含め地域にできることは何かを考えた 1 年となりました。

年の瀬も押し迫っての活動報告となりました。2018 年も変わらず活動を続けてまいりますので、引き続きお力をお貸しください。番組制作者やボランティアスタッフも募集しております。もちろん毎週土曜日 12 時からのワンコイン番組（年末は 23 日まで、新年は 1 月 6 日から）への出演もお待ちしておりますので、ぜひ足をお運びください。



ワンコイン番組の守護神
「どごうちゃん」

わいわいの聞き方

わいわいの聞き方は大きく分けて 2 種類！



- ① " tcc117.jp/fmyy " を開く。または「FMYY」で検索。
- ② わいわいのホームページ、左側の「わいわいを聞く」ボタンをクリック。
- ③ (一部ブラウザのみ) ダウンロードされたファイルをダブルクリック。
- ④ わいわいをお楽しみください！



- ① Android スマホをお使いの方は「Google Play」、Mac や iPhone をお使いの方は「AppStore」を起動。
- ② インターネットラジオ視聴用アプリの「Tunein」「My tuner Radio」「FM 聴」のなどをインストール。
- ③ インストールされたアプリ内の検索機能を使って、「FMYY」または「FM わいわい」を検索し、タップ。
- ④ わいわいをお楽しみください！

わいわいの多言語番組を一部ご紹介

インターネット配信だけになっても
変わらない。
いろんな言葉で発信中！

☛ **Phòng chống thiên tai** (フォンチョン
ンティエンタイ / 災害の備え)
ベトナム語番組



① 第1, 第2 土曜日 17:00-17:30

たかとりでともに活動するベトナム人コミュニティを支援する団体「ベトナム夢 KOBE」とわいわいの共同で制作するベトナム語番組です。日本はとてつもない災害の多い国です。その日本で安心な生活を手に入れるため、外国人も防災知識をもつことは重要です。この番組はベトナム人に向けて母語で防災の知恵を伝えます。各回のテーマは「日本の災害」「台風」「寒さと病気(インフルエンザなど)」「阪神・淡路大震災/地震」「保存食・避難所・支援物資など」「津波」。基本的な知識から、生活する上で必要な具体的な防災情報まで、日本で暮らすベトナム人と日本人がほぼ全編ベトナム語でお送りしています。この番組は住友ゴム工業 CSR 基金の助成を受け、制作しています。

☛ **Latin-a** (ラティーナ)
スペイン語番組



① 12:00-13:00

スペイン語圏市民の支援団体「ひょうごラテンコミュニティ」が制作する、日本に住むためのスペイン語の情報番組です。生活に役立つ情報満載で、毎週水曜日にお届けしています。季節の行事の紹介、防災情報、インフルエンザや糖尿病など身近な医療情報、医師による医療相談、労働やビザなど専門家の法律相談といった暮らしに欠かせない情報が盛りだくさん。FM ラジオ時代からの長寿番組で、スペイン語圏市民にとっては欠かせない情報源のひとつとして、好評をいただいています。

☛ **KOBE bridging JAPAN & AFRICA**
thorough ICT



① 第1, 第2 土曜日 16:00-17:00 (前半 30 分
日本語、後半 30 分英語)

アフリカ各国から神戸に留学されている若者をスタジオに招いて、来日しての印象やユニークな経験、あるいは自国の紹介をいただいています。神戸や日本に皆さんに彼らの人柄や国について知っていただき、日本とアフリカの架け橋となることを目指しています。大きな志を持って遠いアジアの地に来ている彼らを理解いただき、受け入れていただければ幸いです。彼らは、現地の政府機関で働く者や、大学などの高等教育機関の教員やスタッフもしくは IT 企業の経営者や技術者であり、すでに社会人の方々ですが、神戸情報大学院大学の修士課程で情報技術やその活用手法について学んでいます。神戸市とアフリカのルワンダ共和国の首都キガリ市との連携により始まった支援事業の広報活動としてお送りしています。

☛ **즐거운 잔소리 시간** (チュルゴウンチャン
ソリシガン / 楽しいおしゃべりの時間)



韓国朝鮮語番組

① 第1 土曜日 18:30-19:00

「チュルゴウン チャンソリ シガン」は、韓国について造詣の深い日本人と韓国から来日、日本に住んでいる韓国人が少しの放送の時間を通じて、心の安らぎと故郷への思いに浸る時間です。特に日本には昔から在日コリアンのみなさんがたくさんいらっしゃるのでも懐メロにまつわる様々なお話を通じてその時代の雰囲気とその頃のたくさんのお話を蘇らせることができればと思っています。またこの番組はリスナーのみならずともある番組です。みなさまが放送に参加して下さったりたくさんの方々から聞いていただきたいと願っています。

みんなでつくる「わいわい」ワークショップ “わいわい”の活動と“わいわい”での活動

17 11/18 (土) 10時→13時半



このワークショップは、わいわいの理事であり兵庫区社協事務局主幹の長谷部治さんを講師に、“わいわい”の活動にうねりを起こすことを目的に開催され、14名の方が集まりました。まず、「ストーリーオブセルフ」という手法を使ったアイスブレイクからスタート。「職場」「社会」「家庭」3つの分野におけるそれぞれの自分、という角度から参加者が自己紹介し合いました。お互いに初めて知ることもあり、和やかな雰囲気での近況報告合戦となりました。その後は、地域福祉ネットワーク

として地域の困窮世帯を支える長谷部さんに最新のボランティアコーディネイト論を交えながらお話しいただきました。——「ボランティア活動を推進するには？」人にはいろいろな欲求があるとされているが、他者を応援したいという欲求があるように思う。そこをうまく活かすのが肝である。また昔はボランティア活動は自発的であるべきと言われてきたがそうではない。上手に誘い、巻き込むことが最も重要。(「やる気ホルモン」はやりはじめないと出ない) わいわいにつなげて考えるなら、目的を常に発信し共感を得、敷居の低い(出入り自由で常に感謝)団体となり、やる気ホルモンがやすい状況を作ること、活動はうねりだす。ボランティアスタッフが定着するには、共通理念と共通作業をとおして、達成感を味わうことが大切。別れ際も大切に「次の約束」をしておきましょう。だから『また来てね!』と言おう! ——というような内容でした。

最後の1時間は感想を交えたランチタイム。「(ボランティアは)本人が自立していなければだめだと思っていたけれど、そうではないかとも思いを変えた。関わることで、うまれることがあるかもしれないと思えた」「どうやって関わってくれる人を増やせるのかと考えている。20年でボランティアというものが変わってきているのだと感じた。チラシをまくだけではなく、例えば試食をしてもらうような工夫が必要なのだと思う。」いろいろな感想が出されました。活動や理念をより伝わりやすい形にして、そこに共感を持った人が入りやすくやめやすい、そして戻ってきやすい場所でありつづけることがキーワードになりそうです。またこうしたワークショップも第2回、第3回と続けていきたいですね!

毎週土曜(第5週をのぞく)は12時からワンコイン番組も実施! 合わせてご参加ください!



番組制作者募集

わいわいでは、活動の趣旨に賛同し、番組を制作して下さる方を募集しています。番組制作にあたっては、会員であること、オリエンテーションを受けていることが必須条件となります。また原則としてご提案いただいた企画を元に、わいわいのプロデューサーとともに、内容をブラッシュアップしていく形になります。オリエンテーションの内容や放送に係る料金など、詳しくは番組募集要領も合わせてご覧ください。お問い合わせ、ご相談は、わいわい事務局までメールでお送りください。お待ちしております。

会員募集! 更新もお待ちしています!

コミュニティメディアは、コミュニティの支えがなくては存続できません。ぜひ会員となりわいわいを支える力となってください。会費という貴重な運営資源が、支える力となっていることはもちろん、手をあげて下さる仲間がいるという事実そのものが、本当に心強く、会費納入のお知らせを応援メッセージと思い、お受け取りしています。存在が貴重だというだけでなく、「わいわいならでは」の配信をもっともっと楽しんでもらえるよう、続けていきます。小さな声を伝えるメディアを、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

10月8日ながたっ子祭ご報告

わいわいが関わる地域イベントのひとつ、ながたっ子祭。わいわいは企画から、当日の音響や司会までフルコミットしています。イベントの概要と感想をお二人の方にお寄せいただきました。



ながたっ子祭の概要 <<長田区役所・川部宣宏>>

13の地域団体と協力機関からなる「ながたっ子ネット」が毎年秋に開催する子どもの為のお祭りです。ステージでは子ども達が日頃練習しているダンスや演奏を披露し、イートスペースとプレイスペースでは、フライドポテト、バルーンアートなど子どものお小遣いで楽しんで貰える食事や遊びを提供しています。「子どもが巻き込まれる犯罪が増えているから、知らない人と話をしてはいけない。」という指導が増える昨今、長田区では「大人と子どもが

ちゃんと挨拶をし合える仲になりたい。」と熱い語りがかわされたことがきっかけで、「ならば大人と子どもがちゃんと顔の見える環境を作ろう」とこの祭りの開催に至りました。

ながたっ子祭に参加して <<プロダンサー金子優>>

ながたっ子祭のステージで「ながたソース City」という長田生まれの楽曲でコテを使ったパフォーマンスをした後、「みんなで一緒に躍る！レッツダンスタイム」を任せて頂きました。

会場いっぱい、みんなが楽しく踊ってる姿、笑顔でペアダンスしている姿を見ると、ダンスを通して年齢や国境を超えて繋がってるって幸せだなあっと心から想いました。

今まで各地でのパフォーマンスの中で受けた刺激を、地元長田の教室の子ども達や大人たちに伝えてきましたが、もっともっと沢山の方々にダンスを通して自分を表現する喜びを分かち合えるような、そのようなキッカケ作りや繋ぐ架け橋に自分自身がなっていけたらと強く想いました！

インドネシアから仲間たちがやってきた！

FM わいわいが 2012 年から国際協力活動を続けているインドネシア・ジャワ島のムラピ山から三人の仲間達を国際交流基金アジアセンターのアジア・市民交流プログラムで日本に招聘しました。三人は、2010年のムラピ山噴火の被災者で、復興の村づくりに尽力していて、コミュニティラジオでも活動している村人です。自然環境との調和、地域文化の継承、地域経済の活性化を重視した「災害からの復興」「災害に強いコミュニティづくり」をテーマに、神戸と北海道の有珠山地域を二つの地域のまちづくりのキーパーソン達と経験交流することが、このプログラムの狙いです。



有珠山では、洞爺湖有珠山火山マイスターの皆さんのガイドで、有珠山地域の防災とツーリズムの先駆的な取り組みを学ぶとともに、火山の恵である、地元の食を堪能しました。神戸ではFM わいわいのワンコイン番組に出演し、その後、まちに繰り出して長田の地域文化を生かした復興のまちづくりについて学びました。そして神戸大学大学院国際協力研究科で特別講義、三人が FM わいわいと一緒に制作した防災教育教材が展示されている JICA 関西の図書館を訪れ、JICA のみなさんとも交流をしました。



阪神・淡路大震災、有珠山噴火、ムラピ山噴火／ジャワ中部地震の三つの被災地の市民／団体が復興のプロセスの中でそれぞれ積み上げてきた「環境との調和」「地域文化の継承」「地域経済の活性化」の経験の学び合いは、次は2018年2月にムラピ山に場所を移して続きます。